



2020～21年度
国際ロータリー会長
ホルガー・クナーク

Weekly Report Niigata



国際ロータリー
2020～21 年度テーマ
ロータリーは機会の扉を開く



2020～21 年度
新潟ロータリークラブ会長
高橋 秀松

新潟 RC 11月第 3 例会 (2020.11.24)(書面例会併催) No.3344

(1) ロータリーソング「我等の生業」斉唱

(2) 高橋 秀松会長挨拶

皆さんこんにちは。私はこんな顔をして、油を売っていますが、実は保育園の理事長先生でもあります。今年はコロナ化で入園式も卒園式も縮小になりましたが、園児に向けての挨拶が一番緊張しますし、苦手です。特に入園式では、子供は、泣くは騒ぐわで、爺の話など、誰も聞いてはいません。

その保育園の施設ですが、運営する保育園が、一昨年認定こども園に改組致しました。

一般的に、今までは小学校入学前の子供の預け先は、幼稚園と保育園でした。そこに認定こども園が加わり、選択肢が2つから3つとなったわけです。

それぞれの施設の特徴と違いについて説明します。

認定こども園の制度が開始されたのが、2006 年でした。都市部を中心に全国で約 20,000 人の待機児童が存在する一方で、幼稚園の利用児童は 10 年間で 10 万人も減少いたしました。この背景には、共働き家庭の増加に伴い、保育園の入園希望が増える一方で、専業主婦家庭が減り幼稚園の入園希望者が減少している事があります。そこで幼稚園と保育園の機能を合わせ持った、認定こども園ができることで、既存施設の有効利用と、効率的な運営を行い、待機児童問題の解消を目指しています。

管轄省庁は幼稚園が文部科学省、保育園が厚生労働省、認定こども園が内閣府となっていて、文部科学省と厚生労働省と連携しています。

幼稚園は教育のために、保育園は保育のために存在している施設ですので、そのため幼稚園の先生は幼稚園教諭、保育園の先生は、保育士の免許が必要となります。

一方認定こども園は、幼稚園と保育園の特徴を併せ持つ施設です。幼稚園教諭と保育士の両方を保有している必要があります。

そして入園対象児ですが、幼稚園は、対象年齢が3歳～小学校に入るまでの児童が入れます。

保育園は0歳児～小学校に入るまでの児童で、いわゆる親が共働きで、保育を必要とする家庭、

認定こども園は0歳児～小学校に入るまで、どのような家庭も預けることができます。

また利用料金ですが保育園は、保護者の所得により自治体が決定し、役所に収めるのに対し、幼稚園は、園が独自に設定し園に収めることができます。認定こども園は、保護者の所得により自治体が決定しそれを園に収めるようになっています。

そして無償化についてですが、2019 年 10 月より3歳～5歳児施設利用料を無償化をしていますし、住民税非課税世帯の0歳～2歳児の施設利用料を無償化が始まっています。

このような対策をして、待機児童の問題、少子化対策に取り組んでいるわけです。

それぞれの施設 幼稚園 保育園 こども園、種類目的が違いますので、基本的な利用時間も異なります。教育方針も保育方針も園によって異なります。

お年寄りとの交流、異年齢交流や英語教育に熱心な園もあれば、リズム学習や体操教育を積極的に取り入れている園もあり、それぞれ独自性を打ち出しています。

いずれにしろ、何にもできなかった 0 歳児から、就学時までの保育と幼児教育は、人間の成長発達にかかわる、最も大切な基本の部分を担当している期間です。むしろ高等教育の期間より重要かもしれません。と自負しております。

皆さんもお孫さんの入園の際には、充分お調べになって施設をお選びいただけたらと思います。以上会長の挨拶とします。

(3) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(東方 幸雄副委員長)

高橋 秀松君

米山奨学会寄付発表(安藤 栄寿委員長)

安藤 栄寿君 岡村 健吉君

本多 晃君

青少年育成基金寄付発表(武田 眞二委員)

本多 晃君 武田 眞二君

(4) ニコニコボックス紹介(小飯田 澄雄委員長)

・田中孝佳君 結婚30年、節目のお花に感謝致します。ありがとうございました。

(5) 宇尾野 隆さんへ米山功労者第5回マルチプル

感謝状贈呈

(6) 「ロータリー財団について」

得永 哲史地区財団資金管理委員長

12月1日の例会予定

「年次総会開催」

送風師・ピーターの話

昔、パイプオルガンの空気が人の手で送られていたところの話です。オルガン奏者の名人が威風堂々と名曲を演奏している間、送風師のピーターは手押しで空気を送り続けました。

オルガン奏者が幕の中に消え去っても、聴衆は拍手を送り続けました。ピーターはうれしくて、名人にむかって「私たちはやりましたね」と言いました。名人はピーターに興味を持ちました。ピーターは音楽も、送風の仕事も大好きです。この子は、名オルガン弾きや名人になれる器量があると直感し、只者ではない、と名人は思いました。

名人はピーターを試してみたくになりました。そこで、ピーターが「私たちはやりましたね」といった時、私がうまく演奏したから、皆はあんなに喜んだのではないかと、厳しく訊きました。ピーターは「私たちが一緒にやったと思っていたのに、そうではなかったのですね」と応えました。

「聴衆に訊いてごらん、私がやったと言うと思うよ」と名人は答えて、聴衆からの喝采に答えて、もう一度オルガンに向かいました。

もちろんピーターは傷つきましたが、すぐ自分の持ち場に帰り、以前と同じように空気を送りだしました。名人は演奏し、ピーターは空気を送り、二人は音楽奏で聴衆の心を楽しませました。

四、五回のアンコールの後、演奏会は終わり、名人は

ピーターのところに来て手を握り「ピーター、君はテストによく耐えた。君は名送風師だよ」と名人は誉め称えました。

「何のテストですか」とピーターは訊き返しました。名人は、君が、私たちじゃなかったのかと訊いた時、私は、聴衆に訊いてごらんと答えた時に、君が、私一人でやったと言い張っていると思ったと説明をしました。

「テストと言うのは、君が自分の仕事をちゃんと続けられるかどうか試そうとしたのだ。お天気の日ばかりの航海というわけには行かなく、時に嵐の日に挑まなければならないときもある。何と言われようと、自分の仕事に集中して、君は自分の正しい心を明かにしたのだ。君の心は、君の頭脳と同様に正しく、君は義務とは何かをちゃんと証明させた私は君に音楽を教え、パイプオルガンの演奏を教授したいと決意して、名人はその通り実行しました。ピーターは音楽の学生となり、芸術家となり、やがて名人となることができたのです。

「へまをしでかしたビル」

後日、同じホールで別のコンサートがあり、奏者は名人ではなくて上手なオルガン弾きでした。彼は上手にオルガンを演奏し、ビルという少年がオルガンに空気を送りました。観衆は喜び、芸術家は丁寧に礼をしてカーテンに消えました。

送風師ビルはピアニストに駆け寄り、こう言いました、「大将、私たちの演奏は良かったですね」。

「私たち？」と芸術家は怒りました、「お前は何をしたのかね。空気を送っただけじゃないか。私が演奏したんだ。今度はちゃんと聴きたまえ」。

「そうですか、私たちじゃなかったんですか」「あたりまえだろう」と芸術家が、「さあ、次の演奏だ」。彼はオルガンにもどり、指をオルガンのキーに置きました。しかし、何も始まりません。オルガンは沈黙したままです。ビルは空気を送りません。カーテンの端っから、芸術家が「ビル、風を送らんか」と言っているのを聞きながらせせら笑っていました。

「嫌だね、送るもんかい」「客は待ってるんだ。早く行って風を送れ」と芸術家。

「やらないよ。さっき一人でやったんだといっただろう。じゃあ、今度もやってみな」

芸術家はビルへ飛び掛りました。ビルは裏口から逃げ出し、どこかへ行ってしまいました。観客は憤慨して立ち去ります。ビルは仕事を首になります。芸術家も次の職を探すまで時間がかかりました。ひどい混乱で、誰にとっても高くつきました。芸術家もビルも二人ともへまをやったのです。

ビルは無関心の人で、自分ひとりで演奏したと言い張った演奏家は上手な音楽家に過ぎませんでした。

送風師のピーターは音楽学校に行った時、真剣に学ぶ人になりました。ピーターが送風した時の演奏家は名人、ピーターは名人送風師だったのです。

R 情報委員長 小山楯夫